

2010年3月消防でTMテントが初めて採用され、  
雑誌「Jレスキュー9月号」へ掲載されました。

テント編

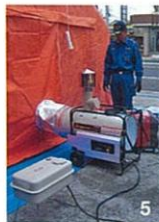


さいたま市消防局が新たに採用した吊下式リフトテント。  
一見するとエア－膨張式テントと似ているが、構造が異なる。



緊急消防援助隊・全国合同訓練  
完全密着  
**407隊、  
結集。**

1/フレームにテント部分を吊り下げ、外側にオレンジのシートをかぶせた構造。テントとシートの間を風が抜けるため室内の温度が快適に保たれ、強風にも耐えることができる。 2/テント内部は一般的なエア－膨張式と同等の広さ。天井部分に張られたメッシュは点滴吊り下げ用のギミック。災害医療用として開発された製品であることがわかる。 3、4/エア－膨張式テント用の冷房システム。家庭用クーラーを流用し発動発電機で駆動する。テント出入口を専用シートで覆い、そこにセットするしくみだ。真夏の応援出動時も暑さに悩まされず快適な会議や仮眠が実現。(写真○さいたま市消防局) 5/冷房システムと同様にテント出入口の専用シートから温風を送る暖房システム。ジェットヒーターを活用。(写真○さいたま市消防局)



「エア－膨張式テント」と「吊下式リフトテント」の併用  
最新のエア－膨張式テント8張りを導入したさいたま市消防局は、ここにもう一歩進んだ対策を講じた。厚着でしのいでいた寒さ対策、出入口の開放以外手がなかった暑さ対策に、テント用の冷暖房機器を導入したのだ。暖房はジェットヒーター、冷房は家庭用クーラーを活用。メーカーに依頼してテント出入口にこれらの冷暖房機器をセットできるよう加工を施した。また、現在消防が採用している

大型テントには、このエア－膨張式のほか、「フレーム式急速展張テント（ドラッシュユテント）」というものがあるが、エア－膨張式テントと併用してさいたま市消防局が採用したのは、素早く簡単に展開でき、再充填等の必要がない「吊下式リフトテント」だ。災害医療用施設として世界中で使用されているモデルで、展開・収納が3人で5分以内、工具を一切使わずに行える。フレーム内の吊り上げ方式によって展開されるため、風向きに関係なく容易に組立てられる。さらに展開後も風圧抵抗が強く、ヘリコプターによるダウンウオッシュにも耐えることができるというスグレモノ。野営を行う吹きさらしの場所でも安心だ。また、テントの壁面と床面が一体構造のため高い気密性を確保。快適な室内環境を維持できる。  
さいたま市消防局は緊急消防援助隊として東北方面へ出動することが多く、とくに真冬の寒さ対策は重点課題だった。テントの冷暖房完備によって、派遣隊員たちは夏冬の「過酷な現場活動終了後の過酷な休息」から解放されたのだ。

33ページ掲載